

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正使用 情報	感染症(PID)	出典	概要
												B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1197-1205	70682に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1162-1171	70682に同じ
												E型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 734-742	70682に同じ
684	2007/10/26	70684	日本赤十字社	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分有	無	無	無	E型肝炎	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P203	最近マレーシアでは、7年間検出されていないかったチクングニヤウイルス感染が再興した。分離ウイルスのゲノム配列は、1998年のアウトブレイク時のMalaysian 分離ウイルスの配列との相関性が高かった。この感染の再興は、他のインド洋諸国における流行とは関係ないが、マレーシア特有のチクングニヤが流行する可能性が浮上している。
												E型肝炎	Neurology 2007; 69: 156-165	同種造血幹細胞移植(HSCT)後に急性大脳辺縁系脳炎を発症した患者9名の臨床、EEG、MRI、ならびに臨床検査特性を調べた。患者は、順行性健忘、不適切な抗利尿ホルモン分泌症候群、軽度CSF多球症、一時的なEEG異常(顕性、不顕性)いれん発作を反映する場合が多いを特徴とした。MRIでは、T2、FLAIR、DWI画像にて、扁桃体、内側嗅頭、海馬領域内に高信号域を認めた。PCRを用いた初回腰椎穿刺CSFの検査では9名中6名がHHV6陽性であった。CSF中のHHV-8と関連付けられる可能性がある。
												鳥インフルエンザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	血漿製剤の製造中に通常使われるウイルス不活性化処理、即ち、ヒトアルブミンの低温殺菌、静注用免疫グロブリン(VIG)のSD処理、第VIII因子インヒビターバイパス複合体製剤の蒸気加熱、及びVIGの低pHインキュベーションが、H5N1インフルエンザウイルスの不活性化に有効かを再集合体株を使って調べた。その結果、H5N1インフルエンザウイルスは、エンペローブウイルスと同様の挙動を示し、これらのウイルスの不活性化処理によって効果的に不活性化された。